事例研究報告

自立活動を主とする教育課程で学習する特別支援学校小学部低学年児童への食事の内容と食事環境の整備

児童の実態①

●小学部　肢体不自由・知的障がい
就学前から経管栄養を使用。

※5歳くらいまでは普通食を食べていたが、体調を崩してから、経口摂取を嫌がるようになった。

児童の食事の実態（前期）

●ペースト食で全介助。

●食事量が総量の50% or 300g以上で胃ろうによる注入なし。

保護者の願い

・以前のように、普通食を食べることができるようになってほしい。
・様々な味に慣れて、食べることができるメニューを増やしたい。

教師の願い

・ペーストだけでなく、普通食も食べることができるようになってほしい。
・本児の好みの味を知り、食事のレパートリーを増やしたい。

食事の実態把握

①中岡他（2023）の「食行動質問紙」を使用した。

・食行動質問紙・・・自閉スペクトラム症の食行動測定のための質問紙。

【質問紙から分かったこと】

・お肉等、噛み切りにくい食べものは苦手。
・洋食より、和食の方が好きな傾向がある。

②保護者への聴き取り調査

アドバイザーからの助言

第１回コンサルテーション
7月18日(木)

・嚥下機能、咀嚼機能、発声・発語機能に問題はない。

・ペースト食を止めて、普通食で問題ない。

・無理に食べさせていることを止めて、本人が食べたいと思って食べられる環境が必要。

・介助ではなく、手づかみ食べで、食べたいものを食べるようにすると良い。

・仮に食べなくても、胃ろうによる注入がある。

・食事の際に、促し等の支援の必要はない。

・バランスの良い食事にこだわらなくて良い。本人が食べたいものを食べたら良い（他の偏食指導も同じ）。

助言を受けての見直し

●ペースト食から普通食への変更

●本人の食べたい気持ちを尊重する。
→ コミュニケーションを図る

●手づかみ食べの実践

●家庭・デイサービスとの連携

①普通食への変更

●9月より普通食に変更。

・指導6日目から食べるようになった。

・ペースト食には、興味を示さなくなった。

②コミュニケーション機会の充実

【支援方法の変更】

〇本児にメニューを提示する
⇒「食べる？」と問いかける。
⇒　口を開けたら、お箸で食事を口に近づける。

〇メニューを提示した際、顔を近づける、手を伸ばす、声を出す、息を吐く等の反応を示したメニューを食べる。

②コミュニケーション機会の充実

【支援方法の変更】

〇教師も本児の前で一緒に給食を食べる。

・本児にメニューを紹介しながら食べることで食事に関心を示すようにする。

・本児の反応も、同時に見る。

③手づかみ食べの実践

〇本児の机に、手づかみできる量の食事を置き、食べたいものを食べることができるようにした。

【これまで給食中に手づかみしたもの】

・さつまいも
・さつまいものツル　※食事以外の授業時間

③手づかみ食べの実践

〇自立活動の時間にみかんを食べる時間を設けた。

・1房ずつ手づかみ食べをすることができた。

④保護者・家庭との連携

○家庭との連携

・家庭でも、可能な限り普通食で食事を行う。

・毎日連絡帳で食事量等を共有する。

・特に進みが良かったメニューを共有する。

・家庭での様子も伺い、食事指導に取り入れる。

④保護者・家庭との連携

○放課後デイサービス事業所との連携

・デイサービスでは、おやつを食べることが多い。

・選択する機会を設けてもらい、食べたいおやつを選ぶ活動を実施。

・休日に家庭から持参するお弁当も、普通食で取り組んでもらっている。

※2月より、ソフト食を取り入れたお弁当になっている

児童の変容①

〇１学期と比べて、食事中の笑顔が増えた。

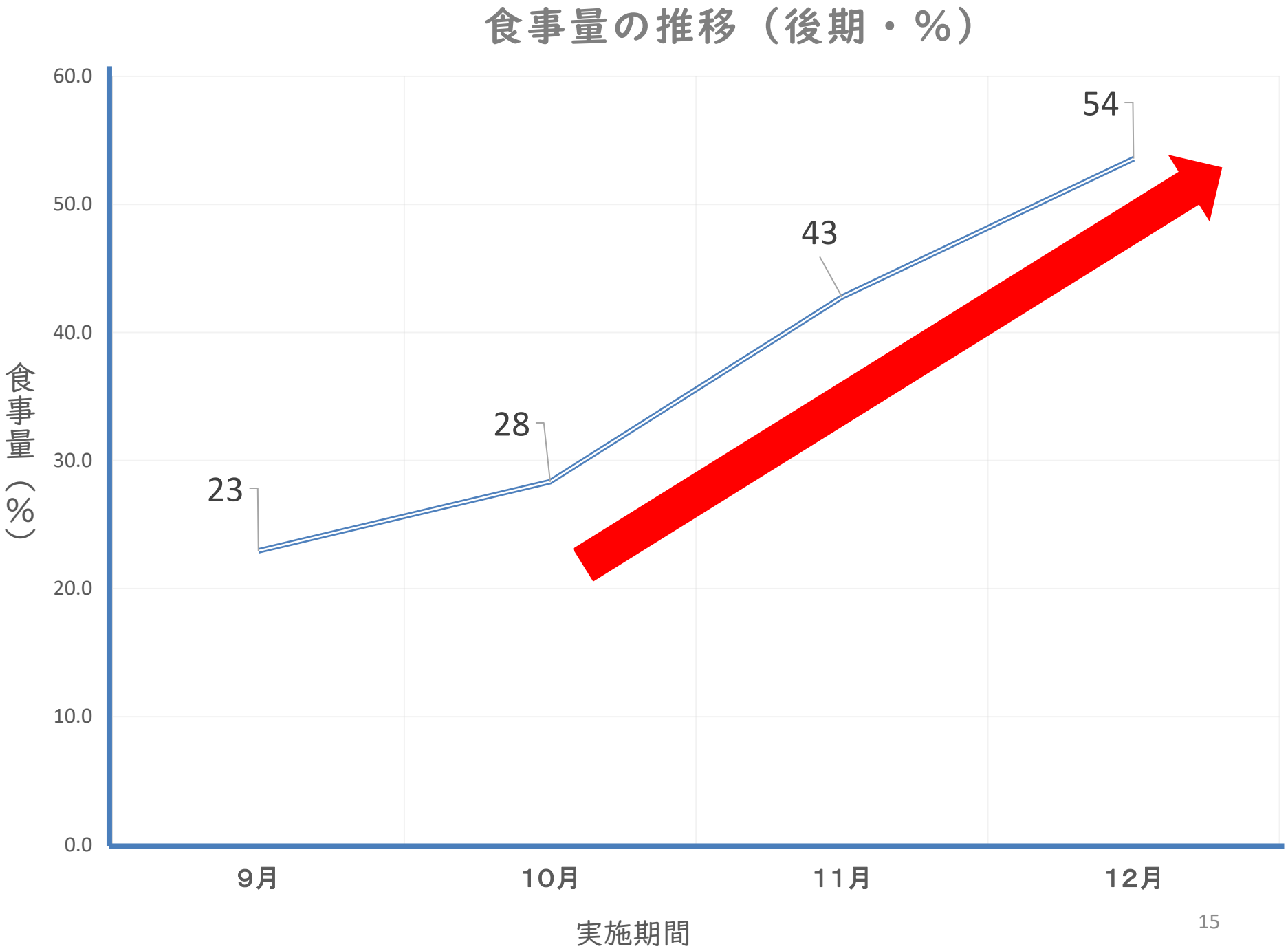
〇給食を嫌がることがなくなった。

〇意思表示をすることが増えた。

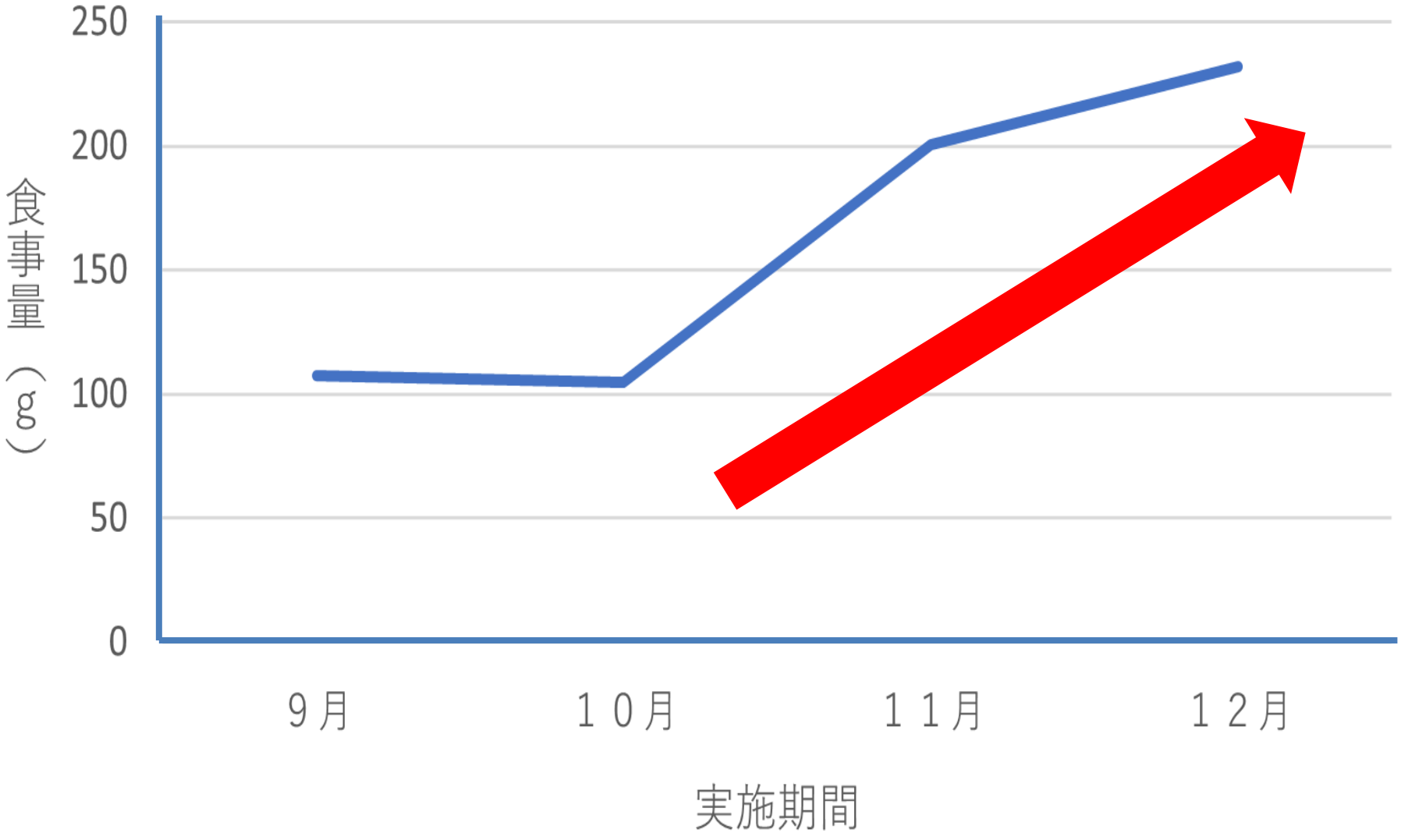
〇給食メニューに興味を示すことが増えた。

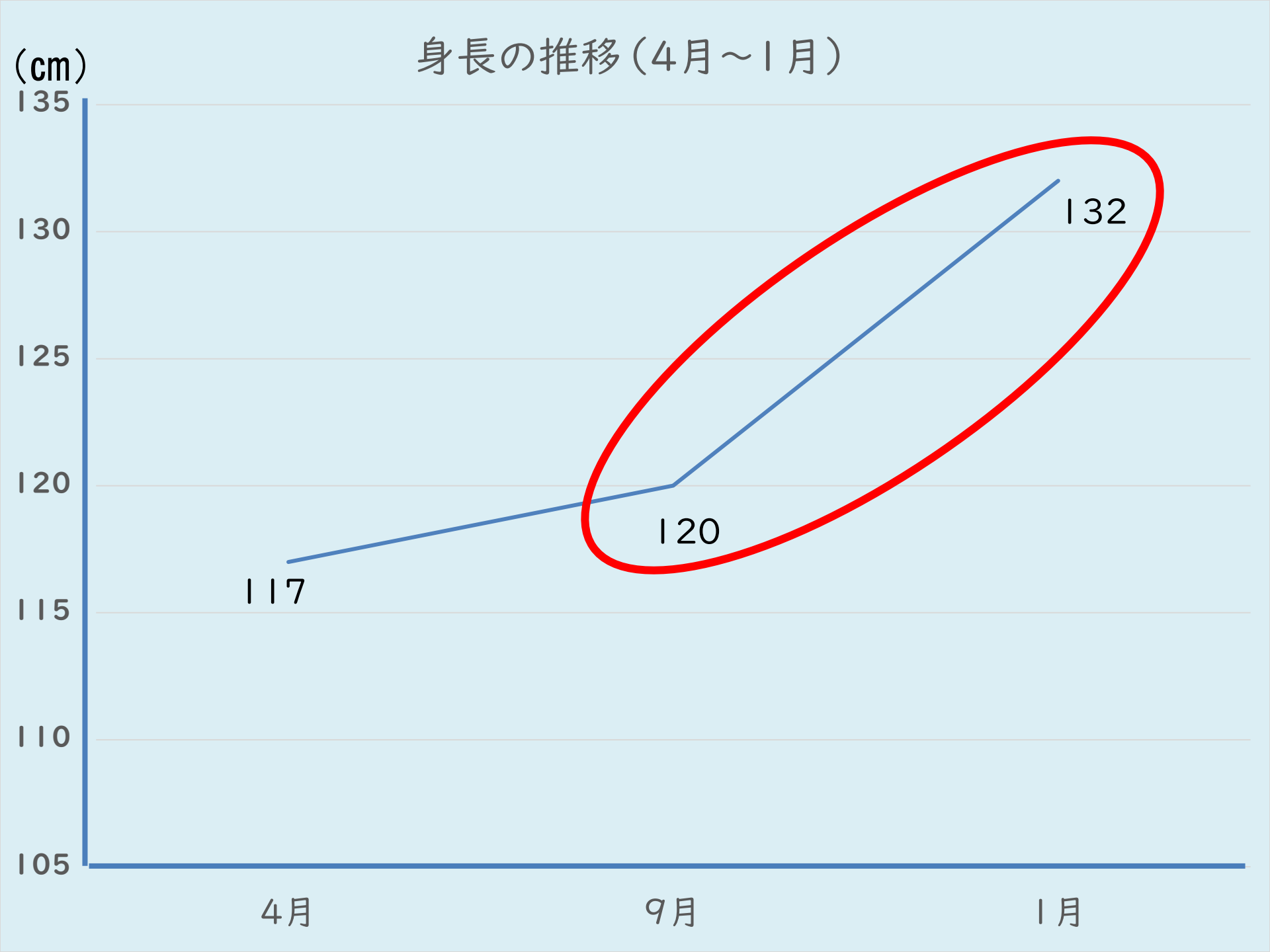
〇日常生活においても、発声が増えた。

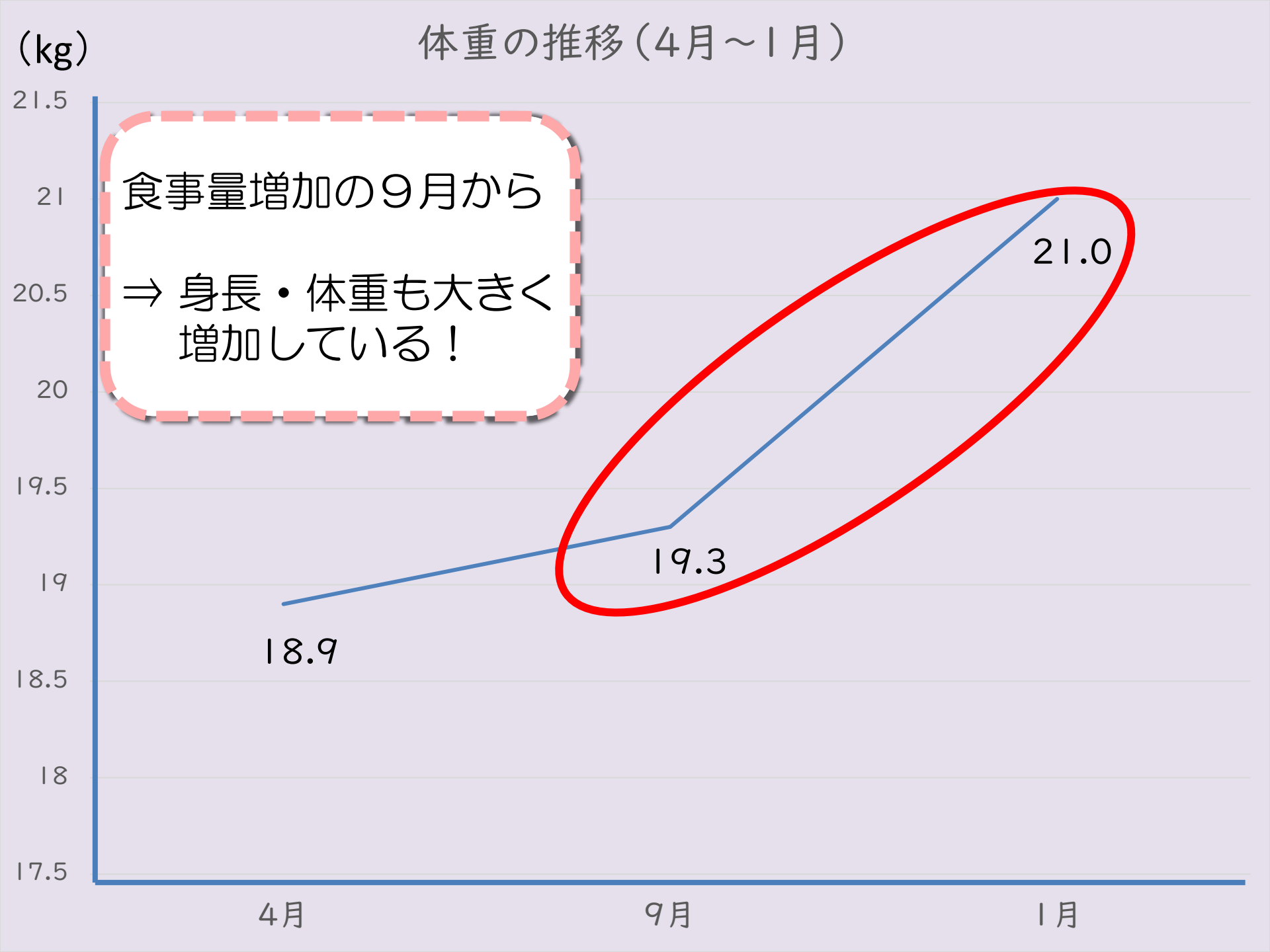
〇食事量0の日が、ほとんどなくなった。


食事量の推移（後期・%）
60.0
50.0
40.0
30.0
20.0
10.0
0.0
食事量（%）
23
28
43
54
9月
10月
11月
12月
実施期間

食事量の推移（後期・ｇ）




身長の推移（4月～1月）
（cm）
135
130
125
120
115
110
105
117
120
132
4月
9月
1月


体重の推移（4月～1月）
（kg）
21.5
21
20.5
20
19.5
19
18.5
18
17.5
食事量増加の９月から
⇒ 身長・体重も大きく
増加している！
21.0
19.3
18.9
4月
9月
1月

児童の変容②

〇周りの児童も、本児が食べる様子を見て、意欲的に食べる様子が見られるようになった。

〇本児も、周りの児童が食べる様子に注目する姿も見られるようになった。

⇒ **<u>相互作用</u>**

教師の変容

〇「食べさせなければ」という思いが和らぎ、本児の意思を尊重して食事支援ができるようになった。

〇教師同士で情報共有することで、本児の好きな味のレパートリーや形態の傾向を掴むことができた。

アドバイザーからの助言

第２回コンサルテーション
12月12日(木)

・食事の時間に、過度に褒めすぎない方が良い。

・噛む力が弱く、甘噛みしたものを丸呑みしている。

・すり潰し機能獲得期 ⇒ 手づかみ食べ機能獲得期

・舌で押しつぶしたり、歯茎で噛んだりする経験が必要。

・噛みちぎる練習はまだ取り組まなくて良い。引き続き、軟飯、軟菜から取り組むと良い。

・視力が弱そうに見えるため、一度検査をしてもらった方が良い。

・お皿の色を変えて、コントラストを付けても良い。

助言を受けての見直し

●舌や歯茎で押し潰して食べる練習。
：家庭とデイサービスで連携する。

●視力検査の実施。
：保護者に眼科の受診を勧める。
：巡回相談の利用。

●色付きのお皿を利用する。

①舌や歯茎で押し潰す練習

・家庭で、煮野菜等の柔らかい食事メニューを取り入れてもらっている。

・デイサービスでは、冷えて固くなったご飯を水を少量入れて温め直し、柔らかくして食事している。

・デイサービスに持参するお弁当は、ソフト食を家庭で購入したものを持参している。

・学校では、おかずに切れ込みを入れ、少しの力で噛むことができるようにしている。

②視力検査の実施

・徳島県立徳島視覚支援学校の特別支援教育巡回相談を利用した。

【見え方についての所見】

・一瞬ではあるが、よく見えている。
・机が狭いので、大きめの机で手づかみしやすい環境にしても良い。
・教材の色や大きさ、距離等を変えてみて、本児の見え方の実態を把握していくと良い。

②視力検査の実施

・徳島県立徳島視覚支援学校の特別支援教育巡回相談を利用した。

・助言指導の時間は、保護者にも同席していただき、相談を実施した。

・２月頃に眼科を受診し、異常なしとの診断を受けた。

③色付きのお皿の利用

・本児がよく食べるご飯の食器を色付きのものに変更した。
・教師と食器が異なると、抵抗感があったため、教師の食器も同じものに変更した。

指導の成果①

保護者の願い

・以前のように、普通食を食べることができるようになってほしい。

⇒ ペースト食からソフト食や普通食を食べることができるようになった。

・様々な味に慣れて、食べることができるメニューを増やしたい。

⇒ 味が濃いものだけに限らず、和食やデザート等の幅広い味のものを食べるようになった。

指導の成果②

教師の願い

・ペーストだけでなく、普通食も食べることができるようになってほしい。

⇒　保護者の願いと同様。

・本児の好みの味を知り、食事のレパートリーを増やしたい。

⇒　和食の出汁がきいたものや、カレー、噛むと汁が出るもの（がんもどき）等、本児の好きな味や形態を把握することができた。

指導の成果③

〇保護者やデイサービスと細かな所まで連携を取り合うことで、どの場所でも似た食事環境にすることができた。

〇巡回相談を利用したことで、本児の見え方についての実態把握の方法を知ることができた。

〇食器を色付きにしても、食事量に大きな差は見られない。引き続き、本児のとってより良い食事環境を模索していく。

まとめ

○「食事は楽しい場である」ことが前提である。

○「食べさせる場」から、子どもが、「食べたい」と思える場所にしていくことが大切であることをコンサルテーションで学んだ。

○偏食は、食事内容や環境等、多くの要素が関わり合っている。子どもによって、どの要素が主になっているかを、正しく実態把握して取り組むことが大切だと感じた。

コンサルテーション実施にあたっての参考文献

趙成河・園山繁樹（2018）．自閉症スペクトラム症児の偏食に対する食物同時提示法の適用 自閉症スペクトラム研究 第15巻第2号．

細川かおり他（2018）．知的障害のある自閉症児の乳幼児から高等部までの食嗜好の偏りの変化に関する研究 千葉大学教育学部研究紀要 第66巻第2号．

中岡和代他（2019）．自閉症スペクトラム症児の食に関する行動を測定する尺度の開発－妥当性と信頼性の検討－ 作業療法 38巻2号．

大阪公立大学（2024）．自閉スペクトラム症児の食支援開始時期の目安に－食行動質問紙が有望ツールであることを実証－ 大阪公立大学リハビリテーション学科プレスリリース．

大山牧子（2023）．子どもの偏食外来 診断と治療社．

立山清美他（2013）．自閉症児の食嗜好の実態と偏食への対応に関する調査研究 浦上財団研究報告書 *Vol.*20．

徳田克己【監】・西村実穂・水野智美【編】（2014）．具体的な対応がわかる気になる子の偏食 発達障害児の食事指導の工夫と配慮 チャイルド本社．

山口健太（2023）．子どもも親もラクになる 偏食の教科書 簡単にできる方法を、一番わかりやすく 青春出版社．

山根希代子【監】・藤井葉子【編】（2019）．発達障害児の偏食改善マニュアル 食べられないが食べられるに変わる実践 中央法規．